

報道関係者向け現地視察会を実施

報道関係者に対する農業現場への理解醸成並びに消費者への情報発信の強化に繋がる取組を進めるため、りんごの開花期に農業現場体験ツアーを実施

○ 施策分類

広報

○ きっかけ・背景、課題の把握

食料・農業・農村基本法に「食料システム」の概念が導入され、消費者への分かりやすい情報発信の重要性が増した。このため、新聞やテレビ等の報道関係者に宮城県内の農業現場に興味を持ち、理解をより深めて発信していただくための取組が必要であると考えた。

○ 取組の内容

米どころの宮城において、りんごは限られた地域でしか栽培されていない貴重な作物であり、その開花期（4月下旬）に合わせ、報道関係者向け現地視察会を実施。現地視察会の工程は、①環境に配慮したりんご栽培（みえるらべる取得）や6次産業化の取組（壽丸果樹園）、②宮城県（県農業・園芸総合研究所）での最新技術（V字ジョイント樹形）、③観光農園（仙台ターミナルビル（株）JRフルーツパーク仙台あらはま）での多品目栽培の現場をバスで巡り視察した。短期間の周知となったが報道機関等に積極的に広報活動を実施し、6社が参加した。

○ 効果・成果、今後の方向性

参加者からは「普段見られない技術が見られた」、「体系的で理解しやすい」と好評で、農業現場への理解促進に繋がった。視察会を経て報道関係者との繋がりができ、県拠点の他のイベント等で取材もしていただいた。今後も現地視察会を通じ、報道関係者の協力との関係強化を図るとともに、県拠点からの発信力を強めていきたい。

視察会の様子



体制図

